

令和4年度社会福祉法人尾道さつき会尾道福祉専門学校
学校関係者評価委員会 会議録

日時：令和5年2月10日(金)14:00～16:00

場所：尾道さつき会会議室 ハイブリッド型オンライン会議

所 属	職 名	氏 名
株式会社リクルート	ビジネスプロデューサー	加藤 茂博
社会福祉法人蓬愛会 栃木介護福祉士専門学校	教務課長	武藤 清子
尾道市福祉保健部 高齢者福祉課	課 長	水田 章治
全国老人福祉施設協議会	会 長	平石 朗
尾道福祉専門学校	校 長	邑岡 志保
尾道福祉専門学校	教務主任	金子 清美
尾道福祉専門学校	教 員	重岡 秀和

1. 開会 校長挨拶

本校は改革が必要な状況と考えている。学生が自主的に学び成長できる環境を作るために、ハード面においても、ソフト面においても変わっていきたいと考えている。その目的を果たす為に、この委員会にて皆様から多面的なご指摘をいただき、自分達の実践に繋げていきたい。

2. 協議事項

(1) 学校の現況、基本方針、教育活動等の現状と課題

2021（令和3）年度学校自己評価報告書より

1. 教育方針、教育理念・目標

地域包括ケアに貢献できる介護福祉士を養成することを目標に、住み慣れた地域における生活支援、医療的ケアを含む重度者支援、マネジメント能力やリーダーシップ力を養うことができる教育へと見直す必要がある。

2. 学校運営

運営方針、事業計画について、中長期的な目標設定が必要と考える。

3. 教育活動

コロナ対策とオンライン技術の習得を目的として、オンライン授業と対面授業を組み合わせ実施。最新の介護動向を実践者から学ぶ授業や、関東・関西在住の講師による講義等を実施した。また、「魅力ある福祉・介護の職場宣言ひろしま」認証制度推進と併せて実習受入先との意見交換を35事業所と実施する機会を持つことができた。今後もオンラインを活用し、授業の幅を広げていく機会を考えていく。

4. 学修成果

細やかな対応を行いつつ、退学防止対策について広く知識や情報を集める等、退学者、休学者の低減を図ることが喫緊の課題である。

5. 学生支援

保護者と協力して学生の生活全般を見守り、また学生の状況に応じた個別対応がより一層求められる。関係機関との連携も深めていく技術も必要である。

6. 教育環境

施設整備については、介護実習室の拡張のため古い備え付け実習用トイレや台所等の設備を廃止したことで、広く動きやすい環境を整えた。また、隣り合った203.204教室の壁撤去工事を行って教室拡張を行った。次年度はトイレの改修を予定する。

7. 学生の受入れ募集

時代と共に高校生の関心事、目にするツール等は変化するため、そこに焦点を当てた広報を実施しなければならないと考える。また、世間一般にある介護のイメージより更にポジティブなイメージを高校生へ情報提供していく必要がある。

8. 財務

2021年度の入学者数から財務状況は上向きとなったが、一方で、年度途中の退学者もあり、財務状況は今後も楽観できない。介護職のイメージアップを図りながら、現役高校生の入学者を獲得するための努力がさらに必要である。

9. 法令等の遵守

専修学校設置基準等を遵守し、適正に運営するよう努めている。

10. 社会貢献・地域貢献

コロナ禍においても学校の資源活用や施設の地域貢献について、その在り方を模索していく。そのためにも、地域にある団体や組織と関係性を強めて地域のニーズに応える準備を行う必要がある。尾道市及び周辺地域での社会貢献活動や地域貢献活動の機会を通して介護職のイメージアップを図り、学生募集につながるように、積極的な地域行事への参加を継続して行く。

(2) 質疑応答・意見交換

①学校と介護現場の繋がりについて

校長) 栃木介護福祉士専門学校 (以下、「栃介」) における、学校と現場をつなぐ取り組みを教えてください。

武藤様) 同法人の施設を使っていこう、つながることを常に意識している。実習もその多くを法人内事業所でお願いしている。卒業生の指導を受けている。

②学生募集・学生対応等について

校長) 本校のこれまでのやり方を今一度見直していきたいと思っているため、栃介の現状を参考にお聞きしたい。

加藤様) 学生募集の効果的な取り組みはどうか。

武藤様) 募集は苦戦しているところである。外国人を受け入れている。

校長) 本校の課題として退学者低減への取り組みが挙げられるが、栃介の取り組みはどうか。

武藤様) 退学者は少ない。学生同士の良い関係が要因かもしれない。共に学んでいる留學生を助けようとするほか優しくなる等の効果はある。

平石様) 関わりに配慮が必要な学生に対しては、どのような関わりをしているのか。

武藤様) 時間をかけ、繰り返し指導することで、学生が退学しなければならない状況にはなっていない。

校長) 栃介の対応をお聞きすると、本校の取り組みも改善の余地が多くあることがわかる。今後の取り組み対する良い材料を与えていただいた。

③行政との協働について

理事長) 働き手不足の中、若者を尾道に引き寄せて、県内に供給をしていきたいところである。栃介は行政の支援はあるのか。

武藤様) アンケートはあったが、現在は行政の支援はない。

水田様) 尾道市では、介護福祉士として就職した際の補助金制度がある。令和3年度8名、令和2年度5名、令和元年7名の実績。今後、制度の周知をしていきたい。

市内全体で人手不足の中、仕事に悩んで離職していく職員もいる。そういった職員の相談先が必要であり、学校がその役割を担うという方法も一つ考えられる。

理事長) 尾道の街の魅力とつなげていく。尾道で生活し、包括的に暮らし、ケアについて学んでもらう。若い人とシニアが助け合っていきながら、学校がハブになる。学びは、一部の資格者だけでなく、生き方や支援の仕方についてみんなが学んでいかなければならない。学校の壁、行政の壁を低くして連携できるのがよい。

水田様) 介護人材の確保もだが、一生学べる学校としての期待がある。

加藤様) 近くの施設や病院との連携を図り、子どもと一緒に来てくださいというような広がりが欲しい。

3. 閉会

理事長挨拶

本校が社会資源として、尾道市の中で活用が図られることを期待する。行政と学校との体系化した関わりが現場支援につながると思われる。

校長挨拶

栃木介護福祉士専門学校様とのオンラインでの定期的なつながりをしていきたい。自分たちの中だけで考えていくだけでなく、連携し協働していきたい。